

【令和3年度使用教科用図書採択に係る 第2回選定委員会】

事務局 ただいまより、令和2年度使用教科用図書採択のための第2回選定委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

それでは、開催にあたりまして、選定委員会委員長よりご挨拶をお願いいたします。

委員長 【挨拶】

事務局 それでは、本日の資料及び委員会の流れについて事務局より説明させていただきます。まず資料をご確認ください。

- (1) 第2回選定委員会 次第
- (2) 第2回選定委員会 会場図
- (3) 令和3年度使用教科用図書 採択事務日程
- (4) 調査報告書（中学校）
- (5) 調査員とりまとめ会記録（中学校）
- (6) 令和3年度使用教科用図書選定資料（大阪府教育委員会）
- (7) 意見交流会記録まとめ
- (8) 市民からの意見書まとめ（6月23日現在）

教科書見本本も準備しておりますので、必要に応じてご覧いただければと思います。それでは、本日の選定委員会について説明させていただきます。

事務局 本日は、教科書採択にあたり、調査員から調査報告を受ける会でございます。より専門的な調査研究を行うため、5月20日から中学校教員の調査員により調査研究活動を実施し、本日お手元にございます報告書を提出いただいております。

選定委員の皆様は、この報告書ならびに本日の調査員の報告をもとに、内容をご検討いただき、7月6日（月）の第3回選定委員会にて協議いただきます。事務局担当指導主事の方で作成します答申書の原案と合わせて協議いただきます。その協議結果等をふまえ、答申書を加筆修正の後、7月13日（月）第4回選定委員会にて確認、修正の後、教育委員会へ答申する運びとなります。

本日は、なにぶん限られた時間での報告でもありますので、答申までの間に、各委員様が教科書センター及び拠点校である中学校、図書館等の見本本などを活用いただくなど、十分に検討いただきたく思っております。

なお、本日は、報告及び質疑応答を含め各種目10分の時間をとっております。始め5分程度調査員からの報告があり、残り5分程度が質疑応答となっております。この報告書を初めて目にした段階で十分なやりとりは難しいかと思いますが、ぜひとも様々な視点からご質問いただき、協議の材料にさせていただけたらと考えます。なお、調査員が即答できない質問については、持ち帰っていただき、次回の選定委員会で担当指導主事より回答することといたしますのでよろしくお願いいたします。

以上でございますが、何かご質問はございますか。それでは、報告いたしますので、よろしくお願いいたします。

【国語】

国語調査員 調査項目の1番、目標・内容の取扱いについてですが、社会生活に必要な知識、技能については、各発行者ともすべての教材において適切な内容が取り扱われております。とりわけ、情報の取扱いについては、多角的な視点で物事を捉え、

多様な情報を互いに関連付けながら、情報を読み解き、考えを伝え合う力を育成することを目指す教材がいずれの発行者にも用意されています。この現代的な課題に取り組む単元では、観点を明確にして、複数の文章や資料を比較し、情報の信頼性を吟味するとともに評価し、確認する作業を通して、自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができるように、根拠を示して文章を書く態度を身につけることを目指して構成されています。また、伝統文化に関する内容については、様々な古典作品を通して、日本古来の伝統文化への興味関心を持たせるとともに、理解を深めさせ時代を超えて共有する感動や心に触れることのできる教材が適切に配置されています。

次に、人権の取り扱いについては、各発行者とも、文章、挿絵、写真、資料などにおいて、人権尊重の観点から配慮がなされています。命の大切さについて考えを深め、豊かな人間性を育む教材が適切に配置されており、その他にも戦争や平和、自然環境問題、安全、防災、人間の多様性、キャリア教育等の課題については、国連の定める持続可能な開発目標SDGsとも関連付けて、子供たち1人ひとりが地球の未来を自分のこととして考え、自ら行動を起こすきっかけとなるよう、国際理解や国際協調についても各種教材が適切に取り上げられています。すべての生徒にとって、教科書を使いやすく、わかりやすくするために、文字のフォントやレイアウト、挿絵などの色づかいにも配慮されています。

3点目、内容の程度に関しましては、生徒にとって興味関心のある題材を用意し、適切な文章の記述と分量になるよう、各発行者とも工夫されています。物語文では、登場人物が生徒と同世代のものや空想的な題材を用意することで、生徒の興味関心を高める工夫がなされています。説明文では、動物の生態に関する文章や、住居、野菜、ニュースの見方など、日常生活との密接なつながりが感じられる身近な題材が配置されています。また、いずれの発行者も、生きることの意味について考えさせたり、生き方や働き方について考えさせたりする題材を、3年生に配置するなど、発達段階にそった内容の教材が適切に配置されています。

調査項目4番、組織配列に関しては、各学年の目標や内容を踏まえて、教科横断的な視点を含めて、螺旋的・反復的に学習ができるよう、適切に単元が配列されています。単元構成については、いずれの発行者も、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、各領域とともに、伝統的な言語文化との関連を考慮しながら、3年間を見通した系統性、計画性をもって適切に教材が配置されています。思春期を迎えた中学生が成長していく過程で、誰もが直面する不安を乗り越えていく主人公の様子に共感を覚える教材や、他者とのかかわりとも関連付けながら、人としての生き方を学習者が自ら考えることの重要性に触れる教材が、発達段階に応じて継続的に学びが積み上げられるように、配置されています。

調査項目5番目の創意工夫に関しましては、言葉による見方・考え方を働かせ、多様な学習活動や方法を支援するうえで、主体的・対話的で深い学びを実現させるための工夫が、いずれの発行者にも見受けられます。新聞製作や、図表、資料を活用して、条件に応じて文章を書く活動、論理の展開や構成を考えながら、考えの形成、記述、推敲に取り組む活動、具体

と抽象の関係について学び、それらを活用して根拠となる情報を集め、根拠を明確にして発表する活動などが取り扱われています。これらの活動は、いずれも学校図書館や情報機器を活用することについても有用で、目的に合わせて、書籍や資料、インターネットを使って調べ、わかったことをまとめ、発表する、そういった活動につながられるよう工夫されています。

6項目目、補充的な学習、発展的な学習に関しましては、発表した内容を確実に習得できるよう補充したり、自分の考えを深めたり、伝えたりして、社会生活に生かすための配慮がなされています。各発行者に共通して、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができるようになっています。発行者によって、テーマのくくり方に差異はありますが、多様なジャンルの中学生の読むべき図書を単元と関連付けた形で、あるいはテーマごとに区分けした形で、それぞれに多数紹介されています。日頃から読書に親しみ、進んで学習や生活に活かすことについて配慮されています。

以上です。

委員 生徒が興味・関心を持ちやすい教材の取り扱いはどのようになっていますか。

国語調査員 古典の導入で、興味・関心を持ちやすい題材を取り上げている点はどの発行者も共通ですが、三省堂は古典のほかに小説や説明文でも生徒が興味・関心をもって学習を進められる教材が取り扱われています。

委員 学習活動を効果的に行うための工夫はどうなっていますか。

国語調査員 まず、東京書籍は「てびき」や「達成」という項目があり、生徒が内容を理解し、より深め、学びの振り返りができるように工夫されています。三省堂は「学びの道しるべ」が設定されており、生徒が内容を理解し、読みを深めながら、自分の考えを確認し、学びの振り返りができるように学習の過程を示しています。教育出版では「道しるべ」で生徒が概要をつかみ、互いの考えを伝え合うという形をとっています。光村図書は見通しをもつ、捉える、読み深める、考えを持つ、学習を深める、という学習の過程を示しています。

### 【書写】

書写調査員 まず、項目1の目標・内容の取扱いに関しては、各発行者が文字を正しく整えて、速く書くことができるように、書写に取り組む基本姿勢や用具の準備、筆記具の持ち方、また点画に関する詳細な説明が施されています。特に、三省堂や光村図書は教科書の端にQRコードをつけることによって、姿勢や用具の持ち方などを視覚的に確認できるような工夫が見られます。

次に項目2、人権の取扱いに関してです。各発行者が社会参画の意識を高めるために、職業体験の依頼状やお礼状の書き方、日常生活に生かすために、手紙の書き方や年賀状の書き方を取り上げています。特に教育出版に関しては、学校生活につながるような、クラス目標や行事、例えば体育

大会や合唱発表会に毛筆を生かす例などが取り上げられています。

項目3は、内容の程度ですが、それに関しては各発行者が毛筆と硬筆の関連性や国語の教科書との関連性に配慮している部分が見られます。特に教育出版や光村図書に関しては、生徒の気づきを重視する部分、また話し合い活動につなげられるような部分が見られ、生徒の主体性を養うことへの配慮も見受けられます。

項目4の組織・配列に関してです。各発行者が毛筆学習から硬筆学習へとつなげるために、配慮している部分が見られます。特に光村図書については、硬筆について教科書内に書き込める部分が多く取り入れられていることに加えて、硬筆の技術をより一層高めることができるように、本書とは別に硬筆の練習帳があることが特長であります。

項目5の創意工夫では、各発行者が学習活動につながるような工夫を施しております。特に東京書籍や光村図書に関しては、基本点画の筆遣いのリズムを生徒に定着させることができるように、止筆をトン、送筆をスッ、終筆をピタなど、わかりやすく音に例えている点が特徴的であると考えられます。

項目6の補充的な学習、発展的な学習についてですが、各発行者が文字文化に興味関心を持たせることができるように、文字の成り立ちや文字の変遷、また文字の歴史などを取り上げており、身の回りの文字を取り上げて、その効果についても考えることができるように、工夫を施しております。その中でも、特に光村図書は、ユニバーサルデザインの紹介や活用に関しても取り上げており、この点から考えて、今後の社会を見据えた指導を行うことが可能であると思います。

以上です。

- 委員 生徒が学習する上で興味関心を持てる工夫にはどんなものがありますか。
- 書写調査員 実際に活用できる場面を設定して、例えば学習発表会やお礼の手紙の書き方等が、教科書の中に載っているということが挙げられます。
- 委員 説明の中に、QRコードのことがありましたが、具体的に授業の中でどのように活用されるのですか。
- 書写調査員 持ち方や姿勢など、教科書で見るとよりも映像で生徒の姿、書いている姿が映し出されるので、視覚的にわかりやすいため、その部分で活用できると思います。
- 委員 他に発行者ごとの特長などはありますか。
- 書写調査員 教科書のサイズが教科書会社によって違っておきまして、教科書を手本に机の上に置いて書くので、邪魔にならない小さい教科書の方が使いやすいかと思います。

【社会（地理的分野）】

地理調査員 　では、社会地理的分野の調査報告を始めます。まず、東京書籍については、教科書全体を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進められるようしています。この学習の進め方によって、生徒が学習を系統立てて進めることができ、より学びを深めることができます。また、単元終わりにシンキングツールを使った振り返り、まとめがあり、考えがまとまりにくい生徒の手助けや他の生徒にとっても学習内容を補完するために役に立つ工夫を行っています。例えば、中部地方、誇りに思うものランキングやアフリカ州の産業をXチャートにまとめるなど、生徒が考えたことを可視化しやすく、3観点で評価するときの「思考力・判断力・表現力」の評価材料の参考にしやすいです。

つづきまして、教育出版についてです。全体的に教えた内容が、しっかりとおさえられており、生徒の学習内容をよりいっそう深めることができると思われます。また、世界の諸地域の「地域から世界を考えよう」と日本の諸地域の「現代日本の課題を考えよう」では、各学習課題を深めるためのトピックが掲載されており、この工夫を通して、学習内容を深めることができます。他の工夫は、学習コラムとして、「地理の窓」と「地理の技」があり、生徒の学習をさらに深めて内容や地図・グラフの読み取りの技能向上等をねらった工夫がされており、地理的な技能についても、さらに学習を進めることができます。

つづきまして、帝国書院についてです。使用されている写真資料が、全体的に鮮やかです。また、世界地理の分野でも日本地理の分野でも生徒が知っていそうな有名な観光名所の写真を取り上げており、生徒が学習内容に興味・関心を持ちやすくなっています。「未来に向けて」では、様々な課題を掲載することで、生徒が主体的に取り組むための工夫があり、各章の導入部分では序章として「学ぶにあたって」と各章の学習のねらいを明らかにしています。また、「確認しよう」では、基礎的・基本的な知識の習得、「説明しよう」では、思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動ができるように配慮されており、「対話的」な学習を展開できます。そして、各章末の振り返りで、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題が設けられており、生徒が単元に対して「深い学び」を追及することができます。これらのことから、帝国出版では、「主体的・対話的・深い学び」を生徒に興味・関心を持たせながら学習させることができます。

最後に、日本文教出版についてです。地域的特色の理解に必要な教材が系統的に配置されており、諸地域の学習において、最後に特集ページとして「自由研究」において地理的特色を確実にとらえることができる構成となっています。また、地図、写真、グラフなどの図版を豊富に掲載しており、本文の区別がはっきりしており、見やすい構成となっています。深い学びにおいては、「トライ」・「スキルUP」・「アクティビティ」・「チャレンジ地理」なども含めて、毎時間、思考力・判断力・表現力などの向上を図ることができるものが掲載されており、生徒の学習を補充してくれる内容となっています。また、「地理プラスα」「自由研究」などコラムや特設ページによって具体的事例とともに紹介されており、生徒の学びを補完する内容になっています。

以上で、社会地理的分野の報告を終わります。

委員 　生徒の自己評価や学習評価につながるような各発行者の工夫というのは、何かありますか。

地理調査員 各者ともに毎授業の終わりに、知識の確認、表現力を問うようなコーナーを設けています。特に、帝国書院は章の振り返りのところで、観点別に振り返るような工夫があります。また、帝国書院は各節をとおしての問をうけての振り返りでは、「知識」と「思考、判断、表現」の2つの観点で活動することができ、評価につなげやすいと考えます。「地理的な見方・考え方」を働かせて説明しようでは、ステップ1から3で、深い学びへつながりやすい構成になっています。

委員 地理の教科書は写真とかグラフとかがとても多いと思うのですが、何かそういったものの工夫はありますか。

地理調査員 帝国書院の資料についてですが、生徒がよく知る観光地の写真が巻頭に掲載されていることや、写真が大きく鮮やかなことが挙げられます。

委員 日常生活に結びつく工夫はありますか。

地理調査員 その地域に行った気になるような、地域の雰囲気が伝わってくる写真資料が多く、使用している写真がきれいで見やすいです。

#### 【社会（歴史的分野）】

歴史調査員 それでは各観点から見た発行者別の特色をお伝えいたします。まず第1観点である「目標・内容の取り扱い」についてです。この観点で取り上げた発行者は東京書籍、帝国書院、日本文教出版です。東京書籍では、ページ下のチェック・トライが単元目標とリンクしており扱いやすくなっています。またコラムでの説明が的確であり、生徒の興味関心を引く内容であると考えます。帝国書院では、単元の冒頭に設定している目標がわかりやすく、各ページ右下「確認しよう」「説明しよう」が活用しやすいと思われると思います。日本文教出版では、タイトル下の「課題」、ページ右下「深めよう」「確認」が活用しやすいと考えられます。

次に第2観点である「人権の取り扱い」についてです。特にこの観点は歴史的分野において重要なポイントと考えています。この観点で取り上げた発行者は東京書籍、帝国書院、山川出版、学び舎です。東京書籍では、部落差別や女性の権利など、全体を通して網羅されている印象です。帝国書院では、部落差別問題について、コラム記事として簡潔に記載されています。山川出版では、部落差別問題や社会運動が、簡潔に記載されています。学び舎では、民衆からの視点での記述が多く、「憲法のなりたち」については特に詳しく記載されています。

続いて第3観点である「内容の程度」についてです。この観点で取り上げたのは東京書籍、教育出版、日本文教出版です。東京書籍では、資料や説明本文の文字の大きさが見やすく、ページごとに記載されている年表で、今学んでいる時代を視覚的にも理解しやすいと考えます。教育出版では、資料が豊富で見やすくレイアウトされており、ページごとに各時間のキーワードが例示されて、授業で活用しやすいと考えています。日本文教出版では、巻頭の「歴史学習のとらえ方」がわかりやすくまとめてあり、特に文化の資料の取り扱いが視覚的にも工夫されていると考えています。

それでは第4観点である「組織・配列」についてです。「組織・配列」とは他分野と

のかかわりや資料の配置などです。この観点で取り上げた発行者は東京書籍、帝国書院、山川出版、日本文教出版です。東京書籍では、文章を中心に置き、周囲の資料の大きさも十分確保してあるので、見やすい作りになっています。また、分野関連マーク、教科関連マークが示してあることで、人権や社会問題の内容について、地理・公民分野との関係がわかりやすくなっている点が効果的です。帝国書院では、全体的なデザインが角ばっており、スマートに見える点、図やグラフなどの資料が大きく掲載されている点などが、生徒にとって見やすいものとなっているといえます。山川出版では、他の発行者が扱っていない資料が多く配置されていたり、各単元の目標テーマが2つあったりと、1単元から様々な観点で学ぶことができるように配慮されています。日本文教出版では、単元頭の大きな資料で、単元全体の流れがつかみやすいという点があります。ほかにも、全体の色合いが優しく、資料と文章のバランスが見やすくなっている点や、地理分野と公民分野だけでなく、社会をとりまく「衣・食・住」からの観点を取り上げるなど、つながりが多岐にわたる点が特徴としてあげられます。

続いて第5観点である「創意工夫」についてです。この観点で取り上げた発行者は教育出版、育鵬社、学び舎です。教育出版では、巻頭資料が多面的・多角的に歴史を学ぶための配置になっている点、単元のタイトルが興味関心を引く内容になっている点、絵巻などの資料から、生徒に考えさせる導入を構成している点などが特徴として挙げられます。育鵬社では、すべての単元が通し番号になっており、流れをつかみやすいという特徴があります。学び舎では、取り上げられている資料や振り返り、コラムが充実している点が特徴的です。

最後に第6観点である「補充的・発展的な学習」についてです。この観点は授業における取り扱いやすさにかかわります。この観点で取り上げた発行者は東京書籍、育鵬社です。東京書籍では、大単元の前ページの予習的ページがあり、活用しやすいという特徴があります。また、資料から発見を活用することで、より深い学びにつなげることが可能になっています。育鵬社は、年表やグラフなどの資料を多く取り入れ、基礎基本の定着を意識した単元ごとの振り返りが充実しているという特徴があります。

以上各観点別の調査報告でした。

委員 観点をいくつか挙げてもらいましたが、その中でバランスということに関しては、どのようになっていますか。

歴史調査員 まず最も各観点のバランスがとれている発行者は東京書籍です。授業の展開において「目標設定」がわかりやすく、「興味関心・多面的多角的に考える・人権」の観点からも各種資料やコラム記事の取り扱いがすぐれています。また各ページの「チェック・トライ」の部分が、社会科として各単元で押さえるべきことが見えやすいつくりになっています。特に生徒の思考を深めるための工夫としてXチャートやピラミッドチャートなどのシンキングツールを活用することができるという点で大きな特徴があります。

委員 ICTを活用した授業を想定した場合に、各者工夫を考えているかと思うのですが、どのようになっていますか。

歴史調査員 今回の教科書採択において、デジタル教科書は判断基準として準備されていませんでしたが、意見交流会の中では、たくさん意見がありました。現在東京書籍、日本文教出版、教育出版からデジタル教科書が提供されています。多くの現場の意見としては、

東京書籍のものが動作、見やすさ、内容などトータルバランスとしてとても使いやすいとのことでした。

委員 紙媒体の書籍とデジタルの書籍では、どう違うのですか。

歴史調査員 紙媒体のものであると、ここを見てくださいと教員が指示した時に、全員が見るまでに時間差が生まれたり、違っていたりすることがあります。デジタルの場合は、例えば子供が1人1台持っていたら同じ資料をすぐに提示できたり、前でプロジェクターで示すときにも、きれいな映像で出てくるのは理解につながるかなと思います。ただ、紙媒体であれば、自分でマーカーなどを使って線を引いたりできるメリットもあります。

### 【社会（公民的分野）】

公民調査員 東京書籍の特徴を説明いたします。まず目標・内容の取扱いについては、「国民主権」について詳しく記され、さまざまな政治の参加方法の主権者教育への対応も考えられています。そして、現代社会に見られる様々な問題について主体的に関わろうとする態度を育成する適切な内容が取り上げられています。人権の取扱いについては、図や表、グラフ等の資料が大きくて見やすく、写真も豊富で視覚的な情報を得やすいため、生徒が理解しやすい工夫が見られます。内容・程度については、文章が丁寧で、図やグラフ、イラストが豊富で分かりやすくなっています。組織・配列については、見開き2ページの各單元最初には「学習課題」、右下部に「チェック」「トライ」というコーナーでまとめの問いがあります。創意工夫は「みんなでチャレンジ」マークが付いている箇所は、グループ学習に利用することができ、「公民にアクセス」などのコラムは授業内容を深めるのに効果的だと考えられ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されています。補充的な学習、発展的な学習については、「Dマーク」が付いている箇所は、ウェブサイトの情報を活用でき、選挙のシミュレーション、円高・円安の影響などクイズ形式で利用することが可能です。

次に教育出版です。目標・内容の取扱いについては、集団的自衛権の行使や自衛隊について、多面的・多角的に考察できるように、賛否両論が公平に取り上げられています。そして基本的人権に関わる内容も充実しています。人権尊重について、人々の努力によって勝ち取られてきた人権や、我が国が抱えている人権課題について具体的な事象、例えば識字、LGBT、死刑囚の再審などを多く取り上げています。そして、平等権、自由権、社会権について、それぞれ2時間分を充てるなど、充実した内容となっています。内容・程度については、グラフが充実していて、各単元のタイトルも独特で例えば、「差別をしない、させない」「自由ってなんだろう」「消費者を守るもの、支えるもの」など、タイトルから授業内容が考えやすく、導入で使用しやすい学習内容となっています。組織・配列については、身近な暮らしから、いろいろな国内の暮らしを学習した後、世界の事柄について学習できるように構成されており、見開き2ページの各單元最初に学習課題、右端の確認、表現という個所にまとめの問いがあります。創意工夫に関しては、各章の「学習のはじめに」のページで具体的な例から、自



ら考えられるような導入になっています。また、ディベート、メディアリテラシー、プレゼンテーション、レポート作成などのワークが設けられています。補充的な学習、発展的な学習については、各章の冒頭に二次元コード「まなびリンク」が付いていて、ウェブサイトの情報も活用でき、各章に入る前に興味関心を高めることができます。

次は、帝国書院です。目標・内容の取り扱いは、現代社会にみられる様々な課題の解決に対して、主体的に関わろうとする態度を育成する内容が取り上げられています。人権の取り扱いは、民主主義における人権保障において、具体例が示され、社会的事象との関係を理解しやすく図式化や写真・イラストで構成されています。内容・程度は、写真も大きく、資料・文字量などレイアウトが見やすく、活用しやすいものとなっています。組織・配列は、見開き2ページの各単元の最初に「学習課題」、右下に「確認しよう」「説明しよう」が記載され自学をしやすい質問が示されています。創意工夫については、各章の「学習の前に」のページは、街並みなどのイラストを見て、教師の問いに対して生徒が答えるといった導入に使えるものとなっています。補充的な学習、発展的な学習については、「二次元コード」が付いている箇所は、ウェブサイトの情報も活用できます。

次は、日本文教出版です。目標・内容の取扱いは、各見開きの左下に、地理・歴史との関連が、問いかけの形で示されていますが、特に経済分野は詳しくしるされています。人権の取り扱いは、現代の情報化による個人の権利について取り上げ、「ネット社会」の問題点をわかりやすく説明していることが特長です。内容の程度は、太字の重要語句にはすべてふりがながふられているといった配慮が見られます。組織・配列は、見開き2ページの各単元の最初に「学習課題」「見方・考え方」が示され、右下部の「確認」でまとめの問いが示されています。創意工夫は、授業を各自で振り返るための工夫で「確認」が記号で記され、理解ができているかどうかの確認の問題を構成しています。補充的な学習、発展的な学習については、「デジタルマーク」がついている箇所で、ウェブサイトの情報も活用できるよう工夫されています。

次は、自由社です。目標・内容の取扱いは、歴史的分野との関連や、家族・地域社会・国家に関する記述が多く見られます。人権の取り扱いは、基本的人権の歴史的な取り扱いについて、4ページにわたり紹介しています。内容の程度は、グラフや写真が大きく見やすいよう配慮されています。組織・配列は見開き2ページの各単元の見出しの下に「課題」があり、右下部の「ここがポイント！」と記された箇所には、まとめの問いが記載されています。創意工夫は「ミニ知識」のコラムで、学習した項目に関連した情報を示しており、レポート作成や論文の形式を使用したまとめ方を紹介しています。補充的な学習、発展的な学習については、章末に「学習のまとめ」と「学習の発展」があり、最重要語句が挙げられています。

最後は育鵬社です。目標・内容の取り扱いは、単元見出しの下に、地理・歴史との関連を示しています。人権の取り扱いは、人権思想について、イギリス、フランス、アメリカ、ドイツの歴史的な流れを年表にして示し、比較しやすくなっています。内容の程度は、写真が大きくて見やすく、新聞記事の紹介も多くなっています。組織・配列については、見開き2ペー

ジの各単元の最初に「課題」が、右下部にまとめの問いが示されています。創意工夫は「学習を深めよう」のコラムやページで、具体的な事例が数多く紹介されています。補充的な学習、発展的な学習は、章末に「学習のまとめ」で重要語句のチェック欄と、重要事項をまとめた図や問いかけがあり、復習やまとめをするときに役立ちます。

以上です。

委員 現代社会について深く考える学習課題はありますか。

公民調査員 教育出版では、章の終わりに「読んで深く考えよう」というページがあり、そこで、その章を学んだ項目をもとに文章にまとめて深く考える機会が設けられています。

委員 生徒自身が主体的に考えることができる課題はありますか。

公民調査員 東京書籍では、各単元の導入で「探求課題」があり、それをもとに「展開」で学習課題があり、まとめの活動で導入の探求課題を解決できるように、工夫されています。それにより、探求課題をより深く考えられるようになっています。

#### 【地図】

地図調査員 私から地図についての調査報告をさせていただきます。報告書をご覧ください。項目ごとにポイントを絞って報告させていただきます。

まず、項目の1「目標・内容の取扱い」です。東京書籍は「ジャンプ」というマークを設けることで、関連する資料の参照ページが分かり、検索しやすくなっています。帝国書院は、他の資料との関連づけの工夫に加え、各州を大観できる図や、イラストを用いた解説の内容が分かりやすく、初めて地誌を学ぶ中学生にとって地理的特徴を捉えやすくなっています。

次に、項目2「人権の取扱い」をご覧ください。両発行者ともに、登場するキャラクターの男女比率を等しくしていることから、ジェンダーに配慮された工夫がみられました。また、各地の価値観や文化への理解を育む配慮が確認できました。

次に項目3「内容の程度」をご覧ください。東京書籍は、地図記号や活用方法などを紹介したページがあるため学習にスムーズに入りやすいというのが特徴です。一方、帝国書院は全体的なレイアウトの工夫が見られます。例えば、ハザードマップと地形図の比較、領土問題の経緯の読み取りやすさが挙げられます。知識の習得、活用技能の向上に効果的につくりとなっています。

次に項目4「組織・配列」をご覧ください。東京書籍は、「一般図」「基本資料」「テーマ資料」の3部構成で、縦向きの地図が随所に掲載されており、緯線、経線に沿った地図が丸みを帯びたようなデザインのため地球の姿を捉えやすいようになっているのが特徴です。一方、帝国書院は、「一般図」「資料」の2部構成で、比較的新しい資料が扱われています。また、資料が記されている二次元コードをタブレットなどで読み込むことで、学習を支援する様々なデジタルコンテンツにアクセスできるため、生徒の興

味関心を引き立てる工夫が見られます。二次元コードのマークでパソコンを活用しながら、学習を自らの理解度に合わせて進め、知識を身に付けられるような工夫が帝国書院に見られます。

次に項目5「創意工夫」をご覧ください。両者ともに字体、色合い、レイアウトともにユニバーサルデザインを採用しています。ただし、色の使い方が両者で異なります。東京書籍は淡く柔らかい色使いで、帝国書院ははっきりと明るい色調です。また、帝国書院は巻末にあります統計資料について、列ごとに背景の色を変えるなど、生徒が苦手と感じることが多い「資料の読図」において、見やすいように工夫されています。

次に項目6「補充的な学習、発展的な学習」をご覧ください。東京書籍は、SDGsの17のゴールを示すことで今日的な現代社会の諸課題について対応しています。一方、帝国書院は二次元コードの読み込み機能などICT活用で学習を深める工夫がなされています。東京書籍は、地理・歴史・公民の教科書との関連を設け、現代の諸課題とも結びつけ、補充的・発展的な学習につなげています。

また、東京書籍は地図資料以外の情報が豊富です。他の教科用図書と大きさが同じため、サイズの扱いやすくなっています。帝国書院は縦に大判化されたところが大きな特徴です。大判化したことで、地図情報をより広域に確認することができ、地域のつながりを理解しやすいつくりになっています。大判化によって、重くならないような配慮も確認できました。

以上で、報告を終わります。

委員 見やすさの工夫について各発行者どのようになっていますか。

地図調査員 「東京書籍」は全体的に淡い感じで、やわらかい色調を使っています。そのため、優しい感じに見えます。「帝国書院」は明るく、ぱっと見てははっきりと見えるように工夫されています。両者ともに、生徒が見やすいように極端な色調の違いはなく、工夫されていますが、印象としてやわらかい、明るいに分かれています。

委員 生徒が主体的に学ぶ工夫については、どのように各発行者対応しているのでしょうか。

地図調査員 東京書籍は「資料索引」が豊富で、資料の検索が行いやすくなっています。Dマークが設定されていて、デジタル教材でクリックすると関係画像などにスキップする仕組みになっています。帝国書院は二次元コード、いわゆるQRコードのようなもので自ら学びを深めるサイトにつながるようになっています。

委員 防災の視点で見たときに、両発行者はどのように工夫していますか。

地図調査員 両発行者とも防災のページを設けています。東京書籍はハザードマップ等を比較するページがありました。

委員 比べると帝国書院が世界の資料が多いように感じたのですが、資料の量はどうか。

地図調査員 東京書籍の方が分厚いので、たくさん載っているように思いますが、帝国書院は1ページが大きいので、情報がたくさん詰まっているのかもしれない。あくまで地図ですので、授業では資料集と一緒に補完的に使っていることが多いです。

### 【数学】

数学調査員 数学の報告をさせていただきます。各報告書の観点別に、各発行者の良かった点を中心にお伝えします。まず、目標・内容の取り扱いについてですが、東京書籍につきましては、導入に日常生活の内容が入ることで、数学の良さを実感できるようになっています。大日本図書については、・單元ごとにある「たしかめよう」で復習を取り扱い、「活用・探求」、「学びにプラス」、「力を伸ばそう」で発展的な問題を取り扱うなど、様々な生徒への対応ができるようになっています。学校図書につきましては、「どんなことがわかったかな」で、単元の振り返りができるようになっています。教育出版についてですが、学習のまとめりに「めあて」が明確に記されており、例題、確かめで基礎的な内容の確認ができる等、どのようなことを学習しているのかわかりやすく作られています。啓林館につきましては、導入に日常生活の内容が入ることで、数学の良さというのを実感できるようになっています。数研出版は、探求ノートという別冊ノートで、見方、考え方の力がつけやすいよう工夫されています。日本文教出版についてですが、各章の導入「章のとびら」では身近な話で取り組みやすくなっています。

人権の取扱いにつきましては、どの発行者においても、十分な配慮がされておりました。具体的には報告書を確認してください。

内容の程度につきましては、東京書籍は、各節の終わりに、基本の問題という課題があり、復習がしやすくなっています。大日本図書については、数学の各領域で色分けされており、学習の系統が3年間を通してわかりやすくなっています。また、「補充問題」や「総合問題」で様々な問題を取り上げ、問題量も豊富に設定されています。学校図書につきましては、節末の「たしかめよう」で学んだページが記載されており、復習しやすくなっております。教育出版についても、節ごとの「基本の問題」で基礎、基本の定着が図られ、ヒントのあるページが示されています。また「数学のひろば」において発展的な内容についても取り組めるようになっています。啓林館につきましては「学びを生かそう」というページで、高校での学習内容も取り上げ、中高のつながりを意識した内容になっています。数研出版につきましては、導入の前に既習事項の復習がついていて、取り組みやすくなっています。日本文教出版につきましては、既習事項の復習もできるようになっており、ステップアップは解答例、解説が詳しく書かれており、自学自習にも活用できるようになっています。

組織配列についてですが、大きな違いとしては、1年生の素因数分解を

取り扱う時期が異なっております。啓林館、数研出版、日本文教出版については、四則計算の学習以降に計算の最後として設定されています。東京書籍、大日本図書、教育出版につきましては、1年生の最初に素因数分解が設定されており、小学校の既習事項から発展させて取り組める単元を設定し、小中のつながり、すなわち算数から数学へのつながりをスムーズに行えるような組織配列になっております。

創意工夫につきましては、東京書籍は冒頭で大切にしたい数学の学び方を示し、問題解決に向けて、学び合いや伝え合うことを明確にしております。大日本図書につきましては、各章の導入で「活動」を取り入れ、章の内容へ関心を持たせる工夫がされています。また、各領域で「社会にリンク」というインタビュー記事が提示され、数学を学ぶことの良さを実感できるよう工夫されています。学校図書につきましては、コラム「数学の力」で、数学の力を活用している人を取り上げ、数学の有用性を実感できるよう工夫されております。教育出版につきましては、折り込みを使い、数学的な見方・考え方の一覧がどのページからでも確認できるよう工夫されており、生徒がどのような考え方をしたらいいか、どのように考え取り組んだかを確認することができます。また、巻末の「学びのマップ」で前学年までの既習事項と本学年の各章とのつながりが示され、復習しやすい工夫がされています。数研出版につきましては、問題解決の力をつけるために別冊があり、本編で学習した内容を活用する機会が設定されております。啓林館につきましては、みんなで学ぼう編、自分から学ぼう編の2部構成となっており、必修部分と自学自習課題を明確に示しております。日本文教出版につきましては、「数学を仕事に生かす」「暮らしと数学」で仕事や日常生活に数学がどう活用されているか紹介されており、生徒の学習意欲を向上させる工夫がされています。

補充的な学習、発展的な学習につきましては、各発行者とも、理解度に応じて段階的に問題設定されています。発展的な学習にも各発行者とも対応しています。

以上で説明を終わります。

委員 学習評価についての工夫に関わって各発行者に特徴はありますか。

数学調査員 学習評価、観点別等については、教科書には目立って記載はありませんが、新学習指導要領の主体的に学ぶ点については、発行者ごとに特徴があり、特に大日本図書、教育出版などは、教科書の間に答えのみではなく、説明しなさいという部分が多くなっています。

委員 日常生活とのつながり等を意識しているような各発行者の工夫はありますか。

数学調査員 日常生活に関しては、特に啓林館が身近なものを使っています。他にも大日本図書、教育出版も数学的な考え方を扱う素材が入った導入があったと思います。

委員 小学校からの引継ぎというのが、中学校1年生にスムーズに入れる導入、工夫はありますか。

数学調査員 1年生の最初の導入の学習で、素因数分解を配列している発行者が東京書籍、大日本図書と教育出版です。それ以外は、正の数、負の数が最初に配列されていますので、どちらかといえば、素因数分解を最初に配列する方が小学校で習っていた内容からの導入につながりやすいと思います。

#### 【理科】

理科調査員 東京書籍についてです。各学年で、細かく単元や章ごとに「問題発見」「課題」「分析」「活用」の流れになるよう、構成されています。各節の導入時「レッツスタート」「Before & After」など主体性を高める活動が設定されています。また多彩なコラムもあり、教室の外の世界に学びを広げ、日本のもつ科学や技術、日常生活との関連に誘導し、学習意欲を向上させ、主体的な学習態度の育成につなげています。教科書の判版をA4スリム版にすることで、探究の過程や実験・観察のページにおいて、流れが見やすいところが特長であると思います。

次は大日本図書です。各単元で課題設定の発問があります。実験・観察においては「目的」と「着眼点」といった項目で見通しを持たせています。1年次は「問題発見」、2年次では「計画を立てる」3年次では「振り返り」の観点を中心に構成されています。図やイラスト、写真なども使い、「これまでに学習したこと」「これから学習すること」が併記されており、支援の必要な生徒にとっても見通しをもてる工夫がされているのが特長です。

次に学校図書です。Can-Do List という新学習指導要領の3観点を各学習分野で評価する際に、具体的な例示があるというのが特長です。発展させた課題設定として「理科マスター」や「追求」という項目の設定もあります。巻頭から「なぜ、理科を学ぶのか」が記載されており、仕事に役立てることや正しく知ることの大切さを身近に活躍していることを例に挙げることで、学習する意義を生徒自身が見だしやすくなるよう工夫されています。

次に教育出版です。各単元に「疑問から探究してみよう」という表現を使い、身の回りのことについて考えさせています。巻末には、巻頭で示した探究の仕方と対応させた、「自由研究」の紹介や学年全体に関わる資料として、「基礎技能」「理科で使う算数・数学」「校外の施設を活用しよう」など、単元の学習の幅を広げるような資料があるというのが特長です。

最後に啓林館です。学習の前後で同じ設問を使うことによって、既習内容の振り返りを行っているのが特長です。東日本大震災後の原子力発電に関する課題から、原子力について、考え、判断するような記述の工夫がされており、「探Q実験」という項目で、生徒が主体的に取り組みやすい実験が用意されています。単元末の「みんなで探Qクラブ」には、生徒自身が課題を見つけ、原理や法則などを探究できるような実験例が多く記載されており、同じ問いかけについて単元末で「学んだ後にリトライ」として取り組むことで、学習を振り返り、学びの深まりを実感するよう工夫されているというのが、大きな特長であるといえます。

委員 生徒が興味・関心をもてるような工夫がされている特徴的な発行者はありましたか。

理科調査員 どの発行者のものも写真やイラストの工夫により、興味や関心を高めたり、主体性をもたせたりする探究的な活動が設定されていましたが、啓林館はQRコードを記載することでデジタル教材の活用を促し、本市における今後の教育活動の展開と絡めやすい工夫がされていると思います。また、大日本、教出、啓林館については単元末に「自由研究」の具体例や方法が多く記載されており、より主体的に原理や原則の理解等を目的としたものづくりに取り組めるよう工夫されています。

委員 中学校は理科ですが、教科書の名前が科学になっているのは意図があるのですか。

委員 発行者がつけている名前です。発行者によって名前はいろいろですね。

委員 内容はすべて一緒なんですね。

理科調査員 はい。

委員 深い学びを追究するような工夫、実験をして深めていくような活動とか、何か特長のあつるものはありますか。

理科調査員 深い学びをしやすい実験を取り上げているというのが、啓林館の「探Q実験」という各単元に1つずつしかないものではあるんですが、割と自由に子供たちが意見を交流してということが出来るような実験を抜き出しているというのが、啓林館の特長で、他の発行者にはない特長かなと思います。

### 【音楽（一般）】

音楽調査員 それでは、音楽の調査結果についてご報告いたします。始めに内容の程度について報告します。まず教育出版の方から、1年生の教科書9ページ、曲の構成の学習で、似ているところと似ていないところを探すという子供たちにわかりやすく指示をされているので、見つけやすいと思います。教育芸術社の方は巻末に合唱曲が多く、著作権の関係で教科書以外の楽譜を使用しにくい場合に、良いだろうと思います。1年生の教科書では、曲の構成についての学習のところで、18ページの「主は冷たい土の中に」この楽譜が4段で構成されていますので、短い曲で構成を考えられるところで、子供たちにわかりやすいと思います。また、鑑賞教材、39ページにあります、ジョーズのテーマのところで、子供たちが聞いたことがある、ジワジワとジョーズがやってくる様子を聞き取り、図形だったり、色々な観点で書き取るところから鑑賞に入るので、いきなり大きな曲に入るのではなくて、わかりやすいかなと思います。2、3年生上の教科書で、創作38ページですが、身近な言葉を使って、例えば野菜の絵がかいてあり、トマトとかキュウリなど子供たちに身近な食べ物でリズムを当てはめて創作するといったところが、工夫されており、創作に取り組みやすいと思います。

続いて、組織・配列に関する項目について報告します。教育出版の方は、1年生の教科書で斉唱、2部合唱、2部合唱でも可能な3部合唱、3部合唱という風に段階を踏んで、声部を増やして作られています。創作の方では、1年生では日本語の抑揚を生かした旋律を作るということから、構成であったり、CMソングを創作するといった風に幅を拡大し

ていっていると思います。教育芸術社の方なんですけど、年度の終わりに向けて、時期にあった合唱曲を順に載せているので良いと思います。開いていきなり卒業ソングではなくて、最後の方に卒業ソングが載っているという風に工夫されています。創作では、1年生では表や図形で音楽のリズムだったり、創作をしている観点が良いです。2、3年生上では、五線譜に書かせる。2、3年生下では、五線譜に書くプラス、工夫したところを文章で書かせるといった風に、段階を踏んで作られているかなと思うので、子供たちにあった工夫がされていると思います。

続きまして、項目、創意工夫に関する報告です。教育出版の方は、全体的に楽器や情景などの写真が多く掲載されていることで、生徒たちがより具体的に想像して学ぶことができる工夫がされています。また各教科において、対話的な学習に結びつけるページの工夫がされていて、例えば2、3年生下の9ページをご覧ください。話し合おうというページがあり、そこで対話学習を促すしかけがされています。次に教育芸術社の方を報告します。こちら資料や図、画像がわかりやすく整理されていることで、生徒たちがよりわかりやすく学ぶことができる工夫がされていると思います。例えば、子供たちが身近に感じられるものだと、2、3年生下の60ページにポピュラー音楽のジャンルの図などがありまして、CDジャケットが掲載されていて、かなり親しみやすいかなと思います。後は鑑賞教材の歌舞伎については、上ページ半分にドーンと歌舞伎の演目が載っておりまして、生徒の興味関心を引き出す内容になっていると思います。各教材のページの端に、音楽を形作っている要素が書かれています。これにより、生徒がそれぞれの教材で何を学ぶのか、学習しやすくなっております。

続きまして、補充的な学習、発展的な学習についてです。教育出版の方は、巻頭の4、5ページに学びのユニットというものがありまして、ここでは学びのねらいや学習する曲や活動、学習を活かして学べる曲などが示されています。学びを深めるための手掛かりとなるヒントが示されています。また2、3年生下の66ページ67ページでは、私たちの暮らしと音楽というタイトルで、音楽を通じた教育活動や教育療法の紹介がされています。教育芸術社の方ですが、巻頭で日本を代表する芸術家や作曲家のメッセージや対談が掲載されています。そのことで、生涯にわたり、音楽に親しむことができる心情を育むポイントとなるのではないかと思います。また、生活の社会の中の音楽というタイトルで、社会活動と音楽とのかかわり等を表したものが、どの教科書にも入っています。音楽が文化や教育、人々を支えていることを考えさせられる内容になっていると思います。

続きまして、目標と内容の取り扱いについて報告します。音楽の目標を確実に実現させていくためには、主体的・対話的で深い学びを保障することが大切だということで、主体的・対話的で深い学びをどのように教科書が取り入れているかということを中心として、調べてみました。

まず教育出版の方ですが、9ページのように、各教材について話し合うとか深め合うというページがあります。このページを見ると、書かれているとおりに進めていけば深い学びができるという形で、ずっと指示にしたがって進めて取り組んでいくことで、学びが実現していくというようになっています。教育芸術社の方は、先ほどと比べてみると、こちらと同じくシートがついているのですが、キャラクターがこういう視点で考えたらい、こういう部分がすごくいい、こういうところに注目しようといった形で、どういうところをポイントに進めていったらいいのか、相談したらいいのか、上手にフォローしているところが、工夫されているなと思いました。

次に、人権の取り扱いについてですが、2者とも様々なところで工夫されているのですが、まず教育出版がカラーユニバーサルデザインにすごく凝られていて、歌唱教材が創作



教材かはっきりわかるようにしています。教育出版は前回の教科書に比べても、教科書の紙面の色、色使いをはっきりすることによって、どの生徒もわかるように色ですごく工夫されているというのが特長です。それに対して、教育芸術社ですが、すごく工夫しているなと思ったのが、製本の方法が全然違います。教育芸術社は、譜面台やピアノに置いたときに、演奏中にパタッと本が閉じることがないように製本されているところが、すごく工夫されています。

以上です。

委員 各発行者工夫されていますが、生徒の興味関心を引き出すような仕かけが施してあるのはどちらですか。

音楽調査員 どちらの発行者もグラフィックもきれいな写真や図がたくさん掲載されていますが、教育芸術社の方が、図であったりとか、身近に感じやすいという視点からも、生徒たちの興味・関心を引き出す内容となっているように思います。

### 【音楽（器楽）】

器楽調査員 では最初に、教育出版作成の、中学器楽の教科書「音楽のおくりもの」についての調査結果を、観点に沿って報告いたします。まず、全体として、生徒が様々なジャンルの音楽に触れることができるよう、取り扱っている楽曲の数が豊富であるとともに、生徒が単に演奏の技能だけでなく、音楽的な見方や考え方を養うことができるよう、各学習のめあてが設定されています。

次に、人権にかかわる配慮についてです。「何が同じで、何が違う？」というコーナーでは、和楽器、ヨーロッパの楽器、その他の民族楽器の中から同属の楽器がいくつか取り上げられ、生徒がそれぞれの音の特徴などを比較しながら、それらが持つ良さを捉えることができます。日本の伝統音楽はもちろん、諸外国の音楽とその背景にある歴史や文化についても解説されています。

続いて、内容の程度についてです。アルトリコーダーの学習においては、生徒が楽しみながらスモールステップで技能を身につけることができるよう、難易度をふまえて曲が段階的に配列されています。また、共通事項については、生徒が無理なく理解できるよう、各教材の中で適切に取り扱われています。

続いて、組織および配列についてです。「名曲旋律集」では、鑑賞曲と関連づけて楽器を演奏できるよう、配慮されています。また、どの楽器においても、写真またはイラストを用いて、運指や構え方、息の入れ方等が説明されています。さらに、「まなびリンク」という学習に役立つ動画集が用意されており、わかりにくい箇所があった場合でも、動画を再生して確認することができます。

続いて、創意工夫についてです。リコーダー二重奏の曲が多く掲載されているため、学習をとおしてハーモニーの豊かさや、仲間とのアンサンブルの楽しさを、生徒が十分に体験することができると考えられます。また、生徒が日本の伝統音楽についての良さを味わいながら理解を深められるよう、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓などの和楽器が取り上げられており、あわせて日本各地の郷土芸能も紹介されています。

次に補足的、発展的な学習についてです。リコーダーの楽譜にコードが記載されているため、ピアノ、ギターといった楽器を組み合わせるとアンサンブルが可能です。最後に、教科書のはじめにある「心をこめて」というページでは、演奏家から生徒へのメッセージ

が掲載されており、演奏家自身の、音楽にかかわる姿勢に生徒が触れることができます。また、中学校音楽で定められている内容を、生徒がさらに発展させて学習したいときに取り組める創作教材と鑑賞教材が用意されています。

続きまして、教育芸術社作成の中学生音楽の教科書「中学生の器楽」についての調査結果を、楽器や観点に沿って報告いたします。教育芸術社の「中学生の器楽」ですが、表紙が前回と大きく変わり、生徒が放課後の音楽室でギターをつまびく姿が描かれたイラストになりました。このイラストからは、授業というある種の枠を超えて、生徒が自ら音楽に対して主体的に向かい合おうとする、静かだけど熱い思いのようなものが伝わってきます。全体的に、生徒が、様々なジャンルの楽曲に触れることができるような様々な楽曲が掲載されており、楽器演奏の技術だけでなく、音楽文化について理解を深めることができるよう配慮されています。また、8ページには学習指導要領に示されている3つの資質・能力と、それに関連する学習内容や教材名、身につく音楽の力が一目でわかるように提示されています。生徒自身が確認できるだけでなく、授業者にとっても、年間指導計画や評価規準を設定する際の参考にすることができると考えられます。

次に人権に関わる配慮についてです。全般にわたって紙面が落ち着いた色調で統一されており、イラストが効果的に活用され、見やすい印象を与えます。特にアルトリコーダーでは、曲の練習中、すぐに指づかいが確認できるよう、楽譜のすぐ横にイラストで運指が示されており、リコーダーが苦手な生徒への配慮がなされています。また、日本の伝統音楽だけでなく、諸外国の音楽について生徒が親しみながら学ぶことができるように、楽曲の背景、楽器の歴史、文化などについてわかりやすく解説されています。創作活動におけるルールや課題について明確に示されているため、創作活動が苦手な生徒にも取り組みやすくする工夫がなされています。

次に、内容の程度についてです。生徒が中学校で初めて学習するアルトリコーダーについては、生徒にとって吹きやすい音域の曲から練習を始め、指づかいが段階的に習得できるよう工夫されています。冒頭のページに、どの教材で、どの〔共通事項〕を扱っているか、一目でわかるように説明されています。各教材について、生徒と授業者が、めあてを共有しながら学習を進めることができるように配慮されています。ギターの導入部分においては、細かい説明ではなく、まず3種類のギターの写真と、その下にそのギターを演奏しているプロの演奏家の写真があわせて提示されており、見た目にも非常にインパクトがあります。生徒の興味関心を大いにひきつけると思われま。

次に、組織及び配列についてです。アルトリコーダーの教材が難易度に沿って配置されています。導入の基礎部分から少しずつ技能を身につけ、上達していく達成感を生徒自身が積み重ねながら、楽しく練習に取り組むことができると考えられます。お箏についても、簡単な曲から定番の曲まで幅広く教材が取り上げられており、アルトリコーダーと同様に、生徒が箏に親しみながら、段階を踏んで技能を身につけていくことができる配列となっています。

次に、創意・工夫についてです。定番のクラシックの楽曲以外にも、ジブリやディズニー、J-POPなど、多様なジャンルの楽曲が教材として取り扱われており、生徒の興味・関心を引き付けるとともに、音楽と生活、そして社会とのかかわりについて、生徒が改めて考える工夫がなされています。お箏の最後のページには My melody というコーナーがあり、箏を使った創作活動にも挑戦することができます。

次に補足的、または発展的な学習についてです。各種楽器の導入部分において、豆知識のような「こぼれ話」「コラム」が掲載されており、学習の内容を深めると同時に、生徒のさらなる興味関心を刺激する効果があります。また、楽器の構造や奏法を紹介する際、

プロの演奏家から生徒に向けて、楽器の魅力や練習のこつ、演奏に対する思い等を語るメッセージが添えられています。プロとして主体的に音楽にかかわるその姿は、中学生にとって、強く心に響くのではないのでしょうか。他にも、演奏家本人に関する情報などについて、QRコードをスキャンするだけでインターネットのページに飛ぶことができる機能も追加されていますので、これも生徒の主体的な学びを促すツールとして活用できると考えられます。創作活動におけるルールや課題について明確に示されているため、創作活動が苦手な生徒にも取り組みやすくする工夫がなされています。

以上です。

委員 学習の際に支援が必要な生徒に対しては、どんな配慮がされていますか。

器楽調査員 どちらの教科書も見やすいユニバーサルデザインフォントが採用されています。また、リコーダーの指遣いについて、教育出版は8ページ、教育芸術社は20ページにそれぞれ「ド・レ・ミ・ファ・ソ」の運指が掲載されていますが、教育出版は上から「ドレミファソ」、教育芸術社は下から「ドレミファソ」と並んでいます。教育芸術社の方は、音の高さを意識して並べることで、音の高さを視覚的にも理解しやすくなるよう工夫されています。

委員 生徒の興味関心をひきつけるためにどんな工夫がされているか教えてください。

器楽調査員 どちらの発行者も、各楽器の演奏者からのメッセージなどを掲載し、生徒の関心をひきつけるよう工夫されています。教育出版では、「何が同じで何が違う？」のページで、音色の特徴や音の出る仕組みなどに興味を持つことができるよう工夫されています。教育芸術社では、ギターの商品で、初めに様々なギターの写真が掲載されていたり、クラシックのみならず、海外の有名アーティストの写真も掲載されていたりします。また、奏法については、生徒にとって親しみのあるJ-POPなどでも使われるストローク奏法をはじめに取り扱い、自分が気に入っている楽曲の演奏に挑戦しようとする意欲をわかせることができると考えます。

## 【美術】

美術調査員 どの発行者についても学習指導要領で示されている三つの柱を忠実にわかりやすく教科書として形にしているものでした。生徒の興味関心を引く工夫として、図版の大きさを原寸大にしたり拡大したり工夫を凝らされたものとなっています。また今回新しくQRコードを表示し、美術作品を動画などでみることができたり、美術館のHPを紹介したり、道具や技法など制作に必要な資料として活用ができる教科書となっています。その中でも各発行者それぞれ特徴がありますので説明したいと思います。

身近な生活や環境の中の造形から美しさを感じることができるようどの発行者においても考えられていますが、日本文教出版は、生徒が自己の思いを身近な暮らしの中で見つけ、豊かにするために「飾る」「伝える」「使う」など目的や機能を持った表現ができるよう配慮されています。また、各者ユニバーサルデザインフォントを使用し、見やすい配慮がされています。テーマについても人権に配慮し、平和について考えるためピカソのゲルニカを取り上げています。生徒の発達段階についても各者、段階的に発展的な内容となっていますが、日本文教出版では、小学校から中学校3年生までの学びを図に示し、中学校

では1年生で学んだ題材を発展的に学習できるよう2, 3年生で取り上げており、また造形的な視点の発問を示すことにより育成すべき資質・能力を明確にしています。日本文教出版は、発想や構想に関する資質・能力に関わり、感じ取ったことを基に絵画、彫刻に表現する活動や伝える、使うなど目的や機能を考えデザインや工芸などに表現する活動を取り扱っているページが多いです。

一方、全体的に各者とも鑑賞に関する内容は、増加しており、しっかり観て、考え、深めることに重点を置いた構成になっています。その中でも開隆堂は、鑑賞に特化した内容を取り扱っているページが多く作品の図版において原寸大で掲載されています。光村図書は、レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』の図版の上にトレーシングペーパーを挟み、一点透視図法の消失点を見つけ出す作業ができるような工夫がされています。日本文教出版の浮世絵『富岳三十六景神奈川沖浪裏』においては色の再現が忠実に行われ、実物に近い色味と原寸大の大きさを再現していることでリアリティーのある鑑賞ができるよう工夫されています。また、屏風など実際に折って現実の視点で鑑賞できるよう工夫がされており、再現性が高く、よりリアリティーをもって鑑賞できる、今までの教科書にない、工夫がされています。

巻末資料については、光村図書が取り扱っているページが多く、次に多いのは、日本文教出版そして開隆堂の順となっています。光村図書の巻末の資料については、『学習を支える支援』として「平面」「立体」「メディア」の技法と用具の使い方を取り上げ、生徒に必要な応じて選択しやすい内容になっています。光村図書は「主体的・対話的で深い学び」に関わる項目では、生徒自身が思いや考えを基に創造したり、鑑賞したりする活動の充実を多く図っています。開隆堂は、教科横断的な内容を多く記載しています。日本文教出版は、他の生徒との意見交換などを多く取り入れ、言語活動の充実を図っています。全体を通して、生徒の興味関心を引き、美術を愛好する心情を養い深める構成になっています。以上です。

委員 写真、図版の効果的な使われ方をしているところを教えてくださいと思います。

美術調査員 鑑賞の題材として見開きのページに各者特長が感じられます。原寸大に拡大されていたり、開隆堂は、作品の細部を拡大しわかりやすくしたりしています。光村図書についてはトレーシングペーパーを挟んだり、実際の紙に近い紙質に印刷したりしています。日本文教出版については屏風など実際に折って現実の視点で鑑賞できるよう工夫がされており、再現性が高く、よりリアリティーをもって鑑賞できる、今までの教科書にない工夫がされています。折って見ないと立体感というものが出ないので、そもそも折って見るように描かれているんです。迫ってくるような感じです。通常でしたら教師が用意をして見せてあげるのが1番良いのですが、原寸大のものを借りてくることは、なかなかハードルが高く、やはり教科書でやっていただけると、新しい視点の鑑賞ができるかなと思います。

### 【保健体育】

保体調査員 まず項目別に説明させていただきます。目標・内容の取扱いにつきましては、どの発行者も学習したことを、子供たちが整理して学べるような形で取り扱われています。東書と大修館、学研につきましては、章末にまとめがあります。大日本図書だけは、単元末と章末にまとめの記述がございます。

2つ目、人権の取扱いについては、どの発行者もユニバーサルデザイン、ユニバーサル

フォント、ユニバーサルカラーというものがありました。しかし、大修館だけはユニバーサルカラーについては触れられていなかったもので、ユニバーサルカラーについては抜いております。その他、人権尊重の観点から、挿絵や写真、資料などは、適切に取り扱われておりました。特に東書については女性を多く採用しているような気がしました。学研については、挿絵については男性が多いように思います。

内容の程度と分量についてですが、文章はわかりやすく、分量も発達段階に応じた内容となっております。写真とか挿絵とか、そういったものも生徒の発達段階を考慮したものになっていたと思います。

組織・配列のところに、各発行者工夫があったように思います。東書だけが、学年の前に保健・後ろに体育、他の発行者は学年の前に体育・後ろに保健というような配列になっておりました。教科書の見開きで、どの発行者も1単元が、1時間で終わるという配置になっておりましたが、東書と大修館については中央に本文があって、両サイドに資料とか写真とかグラフといった配列になっていました。見た目としては、真ん中に集中して、資料があるときには、横に目を向けるといった感じでした。あと、大日本図書と学研については、左のページでは中央に資料がある。右のページでは左に本文があって、また右端に資料が載っている、そんな配列になっておりました。

創意工夫については、東京書籍は「活用する」とか、大日本図書では「話し合ってみよう」というところに特長があって、大日本図書が新しい学習指導要領の対話的というものに着目しているのかなというのうかがえました。

最後、補充的な学習、発展的な学習についてですが、東京書籍、大日本図書、大修館につきましては、章末に資料が載っておりまして、それぞれの資料を活用して、補充的なものと実践的なものと、学習が進められるのかなと思いました。学研につきましては、章末に「探求しよう」ということで、実践的なところに重きを置いているのかなと。補充的な学習が少し不足しているのかなと思いました。

以上です。

委員 各発行者、ページの構成についての工夫されているようですが、実際使うとなったときには、使いやすい工夫をされているなというところはどこですか。

保体調査員 支援の必要な生徒もいるので、教科書を開いたときに、見開きで中央に本文があるのは集中しやすいなと印象を受けました。真ん中に資料があると支援の必要な生徒には難しいなと感じました。

委員 内容・目標の取り扱いについて、各発行者の工夫されているところを教えてください。

保体調査員 工夫というか、大日本図書だけが単元末だけでなく、章末にも学びを生かそうということが考えられていました。目標や内容にはあまり差がないのかなと感じましたが、東京書籍には、新しい学習指導要領の子供たちが自主的に考えとか、そういうような工夫がされているのかなと思いました。現在の教科書は学研ですが、学研はどちらかというと教師の指導型というような雰囲気を受けました。

## 【技術・家庭（技術的分野）】

技術調査員 調査した内容を報告させていただきます。お手元に報告書があると思うのですが、まず最初に、項目1、項目2、項目4について3者共通しているところを報告させていただいて、その後にそれぞれの発行者の特長的なことを述べるといった形で報告させていただこうと思います。

まず最初に、項目1では、学習指導要領に示されている目標、技術分野の場合には、技術の見方・考え方を働かせ、物づくりなどの技術に関する実践的体験的な活動を通じて、技術によってより良い生活や、持続可能な社会を構築する資質能力の育成というものが目標になっております。技術の見方・考え方というのは、例えば色々な製品があると思うのですが、社会からの要求であったり、安全性であったり、環境面であったり、値段、経済であったり、こんなバランスを踏まえて、その技術、商品が良い面もあればマイナス面もある、こんなことを評価するといったことが、物の見方・考え方になるかと思えます。そういったことを含めて、3者とも適切かつ丁寧に取扱われております。そして、物作りが技術では特長的な学習内容になるかと思うのですが、物を作る実践的体験的な学習についても、実践例をより多く取り入れているところが工夫している点で、3者とも共通していると思えます。

項目2の人権の取扱いについても、特別支援教育への配慮や、ユニバーサルデザインへの取組み、それから人権的な配慮など、すべての生徒が使いやすいよう配慮が施されております。

項目4に関わって、配列、構成についてですが、基礎基本のところから問題解決的な応用、発展編といった流れでどの発行者も掲載されており、学習したことを振り返るところまで丁寧に取扱っており、系統的な学習が進められるようになっていると思えます。以上、3者に共通した特長を申し上げました。

次にそれぞれ、こんなところが特徴的だということをお願いしたいと思います。まずは東京書籍ですが、新学習指導要領の理念であります、主体的・対話的で深い学びに向けて、考えたり、調べたり、話し合ったりする学習活動や、知識を深めるための内容、情報量が多いということが特長的だったと思えます。またその主体的・対話的で深い学びとなる、活動のコーナーがあります。問題の発見、課題の設定、解決みたいな学習内容が、今回新たに設けられています。主体的・対話的で深い学びをするための新たなコーナーが設けられているといったことがいえるかと思えます。あと、情報モラルについては、どの発行者も取り上げているのですが、その学習内容を踏まえて情報セキュリティに移行するなど、指導者側も取扱いやすく、また生徒も理解しやすい、こういった点がいえると思えます。最初に触れましたように、東京書籍は主体的・対話的で深い学び、この点に力点が置かれているといった印象を持っております。これは、3人の調査した上での話なので、根拠というよりは印象ということだけで聞いていただければと思います。

教育図書についてです。技術分野においては、大きく4つの内容について学習することになっており、材料加工、生物の育成、エネルギーの変換、情報といった4つの内容があるのですが、この情報という内容の中でプログラミングを取り上げている量が、非常に多いです。申し上げた4つの内容全般に言えることとして、言語活動を促している箇所が非常に多いです。実習、作業をするために、基礎的な技能を技術ハンドブックとして別冊でまとめていたり、ワークシートを切り取り式にしたりするなど、作業しながらまとめるということを同時並行的に進めやすい、こういったことがいえるかと思えます。作業していると教科書が邪魔になるといったこともあるのですが、別冊のものがあるならば持ち運び

しやすく、邪魔になりにくい、実習したことをそのまま書き込みするのに便利かなということも言えるので、それが教育図書の特長で、作業しながら、実習しながら、まとめたりするのに、取扱いやすいということがいえます。

開隆堂ですが、物の見方・考え方ということに触れましたが、科学的な根拠法則を踏まえて、考察する、考える、学ぶ。こういったことが特徴的になっていると思います。いろんなものを比較したり、これはこんなときに評価できるよ、これはマイナス面かなということ、感覚でとらえるのではなくて、根拠をもとに示したりしているところが特長的だと思います。あと、環境とのかかわりを取り扱っているところが多いということと、教科書が子供目線で写真やイラストが多く掲載されていることと、文字の段落と段落に微妙なスペースがあって読みやすいといったことが開隆堂にはいえます。他者との比較ですが、文字が並んでいる間にスペースがあると読みやすいといった特長があります。繰り返しますが、技術の見方・考え方を考えるにあたって、科学的な根拠を示した中で子供たちに学ばせる。そういったところが開隆堂の特徴的なところかなと思います。

以上です。

委員 調査報告書の「創意工夫」の観点に「主体的に社会の形成に参画する力」とありますが、具体にはどのような力を想定していますか。

技術調査員 職業観・労働観といったキャリア形成に関する力、責任感、倫理観、物を作ることによってどんな影響を及ぼすか、協働するということも踏まえて、自己や他者の尊重、家庭や地域への協力など、道徳性に関する力を想定しています。各発行者それぞれ工夫されています。

委員 情報モラルの取り扱いについて各発行者の特徴的なことを、もう少し具体的に教えてください。

技術調査員 東京書籍では、SNSの利用事例を用いて便利な点と注意すべき点を示して比較し考えさせるようにしています。教育図書では、SNSの利用から、想定できるリスクを書き込み理解させるようにしているところが特長的かと思います。開隆堂では、「個人情報の保護」「人権・プライバシーの保護」「肖像権の保護」の観点で考えさせようとしているところが特長的といえると思います。

#### 【技術・家庭（家庭的分野）】

家庭調査員 項目1、目標・内容の取扱いについてです。問題解決的な学習の充実について、東京書籍は、問題解決的な学習について、思考ツールを活用することで、対話を助けて、協働を促し、深い学びにつながるよう工夫されています。教育図書は、各節の最初に発問があり、自ら課題を見つけ主体的に学習に取り組めるよう配慮がなされています。開隆堂は、教科書全体を通して主体的、対話的、深い学びのプロセスで学習を進め、課題解決に向けて取り組みやすくなるよう配慮されています。

項目2、人権の取扱いについてです。東京書籍は、防災教育や安全教育を丁寧に取りあげ、「防災マーク」や巻末の付録に「防災・減災手帳」を設けるなど、生徒の意識を高めるよう工夫されています。教育図書は、様々な人と助け合い生活をしていく上で大切なことには「共生マーク」を示し、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことができるよ

う配慮されています。開隆堂は、現代社会の課題であるSDGsが教科書全体を通して豊富に掲載されています。特に、各学習のまとまりの最終頁にSDGsの目標と関連させて考える課題を設け、生徒の意識を高めさせ、実生活につながられるよう工夫しています。食物アレルギーについて、アレルギー物質を含む食材、代替食材、アナフィラキシーなどを詳しく取りあげ、生徒への注意喚起と安全管理および事故防止について配慮されています。性の多様性を理解するためにLGBTを掲載し、ジェンダーの視点から制服を取りあげ、共に生きる生活を創造していく力が、育めるよう構成されています。

項目3、内容の程度についてです。すべての発行者とも、学習内容ごとにQRコードがついています。東京書籍は、QRコードを押すとすべての単元が一覧になって出てきます。教育図書は、単元ごとに特に大切なところを一覧で見ることができるQRコードがついています。開隆堂は、学習内容ごとにQRコードがついており、使用したいときにすぐに使用することができ、基礎・基本的な技能を確認しやすいです。

項目4、組織・配列についてです。東京書籍は、食生活を大切にしているため「1食生活」「2衣生活」「3住生活」「4消費生活と環境」「5成長と家族・地域」の順に5編で構成されています。東京書籍と開隆堂は、「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」と学習指導要領で示されている順に構成されています。

項目5、創意工夫についてです。東京書籍は、調理実習や布を用いた物の製作実習の中で、題材別に工夫例として「私のオリジナル」を掲載しており、生徒の生活に合わせた工夫のヒントとなっています。教育図書は、「家族・家庭生活」「住生活」の分野では、中学生が親しみをもって学習できるように漫画やアニメを題材に用いる工夫が施されています。開隆堂は、各内容の最終頁にSDGsとの関連を位置づけ、繰り返し学習することで「持続可能な社会」の実現を目指す流れが示されています。また、繰り返し学習の中で、自ら何ができるのかを考え、日常生活に生かすことができるよう工夫されています。また、各学校の実態に応じて選択し、生活の中でも実践できるよう幅広い難易度で多種多様な例が掲載されています。また、ただ作るのではなく、何のために作るのかを意識させ、生活の創造につながるよう配慮されています。

項目6、補充的な学習・発展的な学習についてです。東京書籍は、脚注に「生活メモ」が設けられており、生徒が楽しく読めるようなコラム、学習内容を深化できる内容が取り上げられ、楽しみながら頁をめくり学習が進められるよう工夫されています。教育図書は、布を用いた製作において「私のアレンジ」「材料を工夫してみよう」などで、工夫例を数多く示すなど、日常生活にいかす様々な工夫に気づき、実践しようとする態度の育成に配慮されています。開隆堂は、適宜、リンクマークを用いてA～Cが相互関連した授業ができるように配慮されています。また、カリキュラムマネジメントという観点から、他分野や他教科との関連も示されており、他教科の学習等も意識させることができるよう配慮されています。

以上です。

委員 実習等での工夫や、安全管理の取り扱いはどのようになっていますか。

家庭調査員 3者とも実習時の注意点や、安全管理の取り扱いについて詳しく取り上げられております。開隆堂の場合は調理実習の際、アレルギー物質を含む食材に色線が引かれており、代替食材やアナフィラキシーの記載も分かりやすく示されています。

委員 生徒が興味関心をもって学習に取り組める工夫として、各発行者どのようなものがある



か教えてください。

家庭調査員 3者とも拡大図やコラム、QRコード等、生徒がより関心をもって授業に取り組める手立てが工夫されていましたが、特に開隆堂は各内容ごとにQRコードの記載があり、生徒も教師も調べやすく、学習する内容が定着しやすい構成となっていると思います。

### 【外国語】

外国語調査員 まずは東京書籍です。文法事項は例年通りと特に変更はされていません。QRコードはどの発行者にもありますが、特に東京書籍は、本文、単語、単語の発音記号、そして全文の内容が載っています。人権問題についても適切に取り扱っています。題材に関しては、歩きスマホであったり、SDGsであったりといった身近で現実的なものが載っています。

開隆堂についてです。文法事項ですが、今まで3年生で取り扱っていましたが、現在完了・現在完了進行形が2年生で取り扱われております。QRコードは各ページの本文、音声のみが入っております。人権問題も同じく取り扱っています。

三省堂についてです。現在完了形は2年生で取り扱ってあります。逆に従来2年生の最後に取り扱っている受動態は、3年生で取り扱っています。若干文法配列が変わっております。QRコードも各ページに載っており、本文・単語の音声のみとなっております。人権問題に関しては、非常に多く取り扱ってありまして、故人や昔の有名人等が題材として取り上げられています。

続きまして、教育出版についてです。1ページ目に全ての内容のQRコードを網羅したものが載っておりますので、QRコードにアクセスすることで、教科書内のすべてのページにアクセスすることができます。人権問題については、盲導犬のもの等を取り扱っております。文法事項ですが、現行の指導要領と同じ文法配列になっており、高校で取り扱っていたものは、新学習指導要領で、中学3年生の後半で取り扱われるようになっておりますので、高校に進むことを意識しているなと思います。

光村図書です。QRコード、本文、音声のみです。人権問題も適切に取り扱っております。題材は他の教科書に比べるとストーリー性があり、お話が続いているような感じになっているのが特長です。最後のページに付録がついていて、会話に使えるようなものがたくさん載っています。

次に啓林館です。QRコードが各ページにございます。本文と単語、音声と例文も載っています。人権問題も適切に取り扱っております。イラストが非常に多く、写真よりイラストにこだわっているなという印象です。単元のめあては、英語による発信が主になっており、英語を使って最終的には活用できるようにするというのが目標になっています。文法配列においては、現行の指導要領と同じで、最後に新学習指導要領で新しく学ぶ分野は中学3年生で学ぶようになっています。

以上でございます。

委員 小学校で外国語活動が行われていても、中学1年生で少し変わってくる部分もあるかと思うのですが、そのあたりの具体的な学習の支援はありますか。

外国語調査員 小中連携ということで、どの発行者も小学校の教科化に伴って、小学校でどのような内容を取り扱っているかは、十分精査されておりまして、小学校で使う表現とか単語を

繰り返し使うように設計されています。特にコミュニケーション力を維持し、引継ぎを1学期の最初にできるように、どの教科書も設定されています。違いがあるとしたら、発行者によって、プレゼンテーションをさせたいのか、リーディング、ライティングも併せてまんべんなくさせたいのか、差がある程度です。プレゼンテーションに力を入れているのが、教育出版、啓林館かなと思いますが、そんなに大きな差があるかということ、そういうことではなく、ちょっと多いかなという程度です。

委員 人権的なところをもう少し詳しく教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

外国語調査員 今回の教科書にはSDGsに関することが必ず載っています。内容的にも子供たちが興味をわくような内容で、人権的なお話もあります。その中でいうと、三省堂は例年今まで使っていた教材だったり、人権、平和のことだったり、そういうことは今回も同じように扱っています。他の教科書も人権に関してはしっかり載っています。

委員 特別支援が必要な生徒への配慮はどのようになっていますか。

外国語調査員 基本的に学校で教える内容を、家でも学習できるようにQRコードが入っています。どの発行者もQRコードが利用できますので、自学自習という意味では、QRコードを使ってできるようになっています。ユニバーサルフォントをほとんどの発行者が扱っておりまして、開隆堂だけは違っているのかなと思います。あと、東京書籍だけサイズがA4判で、他の発行者よりも大きいサイズで、イラストもレイアウトも見やすいかと思います。

#### 【特別の教科 道徳】

道徳調査員 項目1、内容の取扱いについては、どの発行者も生徒が自己を見つめ、多面的・多角的に考え、よりよい社会の実現に努められるように、課題設定がなされています。さらに様々な思いを抱き、生徒が主体的・対話的で深い学びが実現できるような内容が扱われています。調査員の中では中学生が、社会のしくみもわかってきており、道徳的観点、自分の価値観も育ってきているので、主体的に多面的・多角的に広く深く考えられるという点を重視しました。ただし、あまりにも自由に考えてしまうと、大事なことを見落としてしまったり、全く違う理解をしてしまったりするので、広く考える中でも、大事にしているものが、見つかるような課題設定をしているという観点で、特徴的なものは、東京書籍、光村図書、日本文教出版です。東京書籍は他者の教科書が学習する内容や目標を、教材の最初や最後の問いなどで、詳細に明示しているのに対して、学習項目が目立たないので、教師がこの答えを求めているということが憶測しにくくなっています。また中学生を主人公としている教材が他者より比較的多く配置され、自分に置き換えて、主体的に考えられるようになっています。光村図書は、生徒に考えさせるテーマをしぼっているため、多面的・多角的な見方ができるようになっています。また、タイトルの下にQRコードがついており、自分で学習を深めることができます。これは他者にはない特長です。また、中学生にとって起こりうるであろう場面、例えば部活動での出来事や、SNSを扱った教材が多く取り上げられているので、より自分のこととして深く考えられます。そういった点で、生徒たちは意見をもちやすく、自分とは違う意見を聞くことができ、多面的・多角的な観点を持つようになっていきます。普段の生活の中で汎用で

きることが多い内容です。そして学習項目については、教材の最初に一言程度で書かれています。また、テーマについてはマークで示されており、文字で書かれていない分、生徒はその考えに縛られにくく、大きなテーマの中で、多面的・多角的に考えられるようになっていきます。学期ごとに学習項目が提示されているのも特徴的です。日本文教出版ですが、文章の最後に「考えてみよう」と「自分にプラスワン」という補助教材が配置されているところがあり、単元のみならず、自分で考えを深めていける配置となっています。

続いて項目2です。人権の取扱いについては、全発行者とも、全学年で、生命の尊さについて重点が置かれていて、人権、いじめ、情報モラルについて、全学年で取り扱われています。その中でも特徴的なのは、教育出版、光村図書、学研教育みらいです。教育出版は目次や単元のページに、いじめ、生命について、注目できるようにマークが指定され、生徒が目次やそのページを見ると、いじめ、生命についてより意識をもって学習ができるようになっていきます。光村図書は、言葉遣いや表現、特に多様な背景や国籍をもつ生徒に対する配慮がうかがえます。細かい点ですが、中学生としては、日ごろから使用している言葉を無意識に使用します。教科書で使用されている言葉から、知らず知らずのうちに影響が出ないようにすることも大切だと思います。学研教育みらいは、ネットやSNSにまつわる話など、現代的なテーマが多く扱われ、より現実的に、いじめや生命について考えることができるようになっていきます。また写真や挿絵、グラフなど視覚的に訴える資料が多く、多くの生徒に理解しやすく、客観的な内容理解がなされるようになっていきます。

次に項目3、内容の程度についてです。どの発行者も、生徒が自分事として捉えられるような問題提示がされており、読み物教材だけでなく、体験的な物やデータ資料等から読み取るなど、多面的にアプローチされています。また、問いに対して1つだけでない、立場や見方が変われば、答えが変わるようなものがいくつか用意されています。調査員の中では、物事や世の中のしくみが少しずつ理解できるようになってきた中学生に、これから先の未来をよりよいものにするための、考えるきっかけを与えられる課題設定ができているものを重視しました。その中でも特徴的なものは光村図書です。共生という大きなテーマの中に、現代社会の課題を3つ挙げています。どの課題にも、ともに生きるためには、どのような工夫や新しい考え方を生み出したらよいのかという共通することを考えることができるようになっていきます。また中学生にとって起こりうるであろう、学校生活の場面や友達との日常を切り取ったものも多く取り扱っています。普段は気に留めないことにも焦点を当てており、他の人の意見を聞きやすく、多面的・多角的な考えができるようになっていきます。

次に項目4です。組織・配列については、学校行事を踏まえて、年間を通じた配列になっているものと、道徳の4つの視点に教材を分類しているものがあります。また各者とも、いじめや、生命、情報モラルなどの教材がバランスよく配置されており、中でも特徴的なものは、光村図書、教育出版です。光村図書では、年間を3つのシーズンに分け、特に学びを深めたい、いじめや情報モラルの教材等について、深めタイムというページが設けられています。他者とは違い、目次に強調して書かれており、テーマが目立つことで印象に残るようになっていきます。そこでの問いかけは、実際に中学生の日常の場面を切り取っており、自分自身に置き換えて考えられるようになっていきます。教育出版はいじめや生命の尊さを連続して学ぶことができるよう、教材が配置されています。また、目次をそれぞれ色で網掛けしているため、生徒が目次を見たときに同じテーマを学ぶということが、わかるようになっていきます。

次に項目5、創意工夫については、どの会社も自らを振り返って、成長を実感させたり、課題や目標を見つけたりする工夫がなされています。また体験的な学習なども、多く取り入れられ、生徒が深く考えられる工夫がなされています。中でも特徴的なものは、教育出版、光村図書です。どちらの発行者も振り返りのページが学期ごとに設けられており、自らの成長を実感しやすいと考えられます。また、教育出版は、やってみようというページで、役割演技や日常の体験を想起して話し合う、体験的な活動が取り入れられています。光村図書は、深めタイム、広げようというページで人間関係の理解について、悩みながら考えられるような体験的活動が取り入れられています。

最後に項目6、補助的な学習、発展的な学習についてです。どの発行者も、多様な見方や考え方に接して、考えることができる工夫がなされています。またデジタル教科書やウェブ資料など、授業の補助的な役割を果たす工夫が多く見られました。調査員の中では、教科書の話の中だけで終わらせるのではなく、日常生活に結び付けながら、自分自身の在り方や生き方を考えられるものと、ウェブ教材がわかりやすく、活用しやすいものを重視しました。その中でも特徴的なものは、教育出版、光村図書です。教育出版は学習に役立つ動画や写真だけでなく、スライドショーも用意されています。光村図書は、項目1でも述べたように、QRコードがあるものもあり、生徒が自ら学びを深めることができるといった独自の工夫が見られます。

以上です。

委員 考える道徳の授業として、各発行者どのように工夫しているか教えてください。

道徳調査員 どの発行者も多面的・多角的な見方・考え方ができるように様々な目線で議論できる余地を残した発問を設けていると考えます。発問が多くあり、導くようになると、多面的・多角的な考えが生まれにくくなるので、実践する中では、その単元に合った最小限の発問で多くの生徒の意見を集め、議論しやすくなり、話し合いが活発に行われるのが理想です。発問を選ぶのが難しいと思いますので、できるだけ最小限の言葉で、最大の考えが生まれる発問があるのが理想的です。その中でも、特に東京書籍と光村図書が発問をしぼってあり、多面的・多角的に考えられるような発問になっています。例えば、東京書籍では「食べ物を心でいただくとはどういうことだろう」光村図書では「いじりといじめは同じものだろうか、それとも違うものなのだろうか。いじられている人といじっている人のそれぞれの立場に立って考えてみよう」という発問が用意されています。

事務局 ありがとうございます。以上が調査員からの報告でございます。

長時間ありがとうございました。それでは、もう一度、次回以降の委員会についての説明と依頼事項を申し上げます。次回、7月6日月曜日14時から、第3回選定委員会を、さんくす三番館中会議室にて行います。教科書について各選定委員よりご意見をいただくことにしています。当日は教育委員会への答申書、いわゆる具申書の案を合わせて事務局より提示させていただきます。報告書、具申書と合わせて協議いただき、その協議内容のもとに、加筆修正された答申書（案）を7月13日月曜日15時から、さんくす三番館教育委員室にて開催されます第4回選定委員会にて確認いただき、その後、教育委員会に答申する運びになります。

次に、ご依頼事項でございます。本日以降、選定委員の皆様にも調査報告書をもとに教

【令和3年度使用教科用図書採択に係る 第2回選定委員会】

科書を具体的に検討いただくこととなりますが、男女共同参画センター、山田駅前図書館、さんくす図書館及び拠点校の中学校等で行っております教科書展示会をご活用いただければと思っております。見本本につきましては、教育委員室にも、展示しておりますので事前にご連絡いただければ閲覧可能です。なお、展示会場での閲覧の際は、閲覧者名簿にお名前をお書きいただきますようお願いいたします。

2つ目は、本日お渡ししました「調査報告書」の取扱いについてでございます。この「調査報告書」は7月13日の第4回の選定委員会で返却いただきますが、それまでの間、教科書内容の研究・検討にご活用いただくとともに厳重に保管いただきますようお願いいたします。当然のことながら、今回の教科書採択終了まで選定委員会の内部資料でございます。外部の方への提供は厳禁ですので、よろしくようお願いいたします。

それでは、以上をもちまして第2回選定委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。